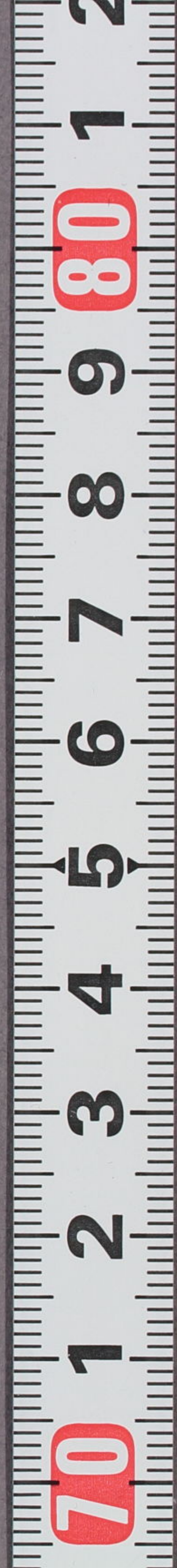


掌中發句五百題

全



掌中發句五百題

春秋菴白雄 著

春之部

元日	元日也	菰人をとるる	驛の那	沾徳
門松	東中やまのく	戸をうけ	飾	蛸子
蓬菜	喰はるや	木曾の白ひの	檜	をの
今中日	船るるよ	小春	桂	今
立春	まゑのや	齒	朶	より
		ち	はる	井
			矢	の
			根	
			許	六

若水 初日 花春 初空 小菰 子日 小松 若菜

若水や凡千菜乃釣瓶縄
鱧乃簀の寒氣となく初日
草外乃庭まん二日そ花の喜
うつそや舩の喜もその負もの
齒菜の菜よんよ包尾の鯛の友
傘持を大根移ふ子の日
乃ふとも小松負ん牛乃夏
圃の〜形巾吸り若菜摘

風鈴 左柳 吼雲 露言 耕雪 柴平 聽雪 其角

七種 齋 芹 梅 紅梅 柳 臘月 霞

七種や唱哥ゆめさ夕おうち
系枕斎う川人時とをそ
十張を得る芹賣時戻り
梅の茎もの氣入らぬけ〜き
紅梅乃咲て雪をかき時山う形
柳をを鼓もう〜歌もあ
夕風よ何吹あけを 臘月
むつらりと岨乃枯木も露り

北枝 山川 小春 越人 風流 其角 北枝 杉風

臘夜 春月 雪解 殘雪 雪間 春雪 系遊 春雨

碎きとまきまぬ夜と形をハ勝式
寐之重ハ旌島之りりまきの月
雪汁や蛤ゆす 場をす
船くは小雪小雪のありり
きんく小塔の雪間を雪下うか
まもまてうくとまき春は雪
系をく動くや去きの古芒
と形もや庭の鮎の子と運ふ

素来 沾徳 木白 且藁 乙州 支考 乱糸 友五

陽炎 長雨 春日 永日 春日 春海 春草 若艸

のけろや登り滞るる秋形も
人乃世や書果ある日の寺林
舟楫もま日ふめらむ水のあや
永日見や鏡撞くはもまぬえ
ぬりあたる秋の光やまきの舟糸
松糸や旭えんよひ 春の海
まきの舟やいつまきのまよふかまき
わきのまや松不付る 蟻乃まら

許六 其角 沾徳 卜枝 杉風 不卜 嵐白 此節

浦公英

半んぼやひさふそくあらぬ花盛

圃箔

土筆

ゆふさやひさふそくあらぬ花盛

文鱗

落臺

落の芽や森を尋る一はつき

浪化

薊

木爪薊縁して見ると花ハなるぬ

山店

莖

炮塚の土ころり一跡とすもれ草

所水

菜花

塊にそかぬ咲きし菜屑の如

冬文

菊植

こころもはまきとて控へ菊は苗

沾徳

杉菜

維子まゝ一跡とすもれ草

田水

蕨

熟綱の境のうらや初らるひ

全睡

藎

酒賢人藎は雲を隠さしや

一露

麦青葉

草麦の葉や益なる鳥のそ

沾徳

鶯

鶯も二弁を合ふ藪年貢

曲翠

雉子

蹴臺もひしけと維子はわら

去来

鶉

俊船やひらり結ぶも潮ら

史邦

玄鳥

乙鳥も所堂の衣敷あつら

其角

雀子

日乃新やあむく結うへの親有

珍碩

麦鶉	かろき家やるふかくまきまうつ	波音
帰雁	麦喰い雁とおもくと別分	野水
几巾	市中や馬より多し	几巾
初午	初午やめらるもの乳母うた月折	沾徳
彼岸	橋咲むくくよ陀の彼岸うた	支考
涅槃	夏あてききて母あつりり涅槃像	崩弾
出代	出代や表すむる車加娘	許六
数入	屋ふひりも流きうた芝の海	琴風

如月	幾うきまや大悪極もむめ結系	野水
寒食	寒喰の日をりひらら新深飯分	桐曲
河返	脊戸中ハ河うり乃季田螺売	文州
焼野	はゆくと焼野よたき蕨うた	由之
獨活	獨肉あくハ芽うとある事推志足	岩水
鹿落角	角落てちうきも落る麻乃友	迹之
椿	坐禅堂はくく椿咲くより	雪笠
若緑	わのこころの涙雲初緑とれと	来山

海棠 木瓜 木芽 指木 接穂 余寒 蝶 蜂

海棠や八時うち出以堂乃前
砂川や及りて日 木瓜の花
膏葉のめくまらうも木芽か
片きうと鬼のぬきさる 指木か
山樞せらむつらうに 接穂か
僧西う若代すおれハ余寒うか
枝木よあうと又のらる 胡蝶か
腕首又蝶の巣かたる 仁王うた

史邦 猿 兎 舟泉 猿 稚 所童 衣吹 松芳

蛙 田螺 蠶 蠶 苗代 田打 畑打 白魚

蛙のすえる石のろく
湖と疇のあらうに田あり啼
常り 露出まらひきこのあか
青ききー大さか家の棚うひこ
苗代とんそ居る藁の鳥うか
園雨そ案所の田とあ夕日か
畑うちや 側小鳥乃物かたり
白魚のとを馴らる 院うた

月睡 朱拙 其角 波圭 支考 全 路茨 木導

小鯨 初梅 茶摘 弥生 上巳 雛 潮干 桃

流壺へ命うちあそぶ小鯨哉
まづ梅ささ追くく又咲けりや
あつたや桑山しよりまぬ連
不二は流よて三月七日八日うぬ
もくの目や解虫ハ美人よ嬬る
雛と抱くくく麻桃の咲りり
三日舟や汐干ハともの海不ある
藪新て馬の白くく 朧乃花

嵐雪 利雪 正秀 嵐國 嵐雪 其流 八橋 孤屋

海苔 海雲 桜 花 梨花 醉醪 岩榴 春風

海苔房や算る魚の中よあり
きのふりふ海雲待しりとの様
朝さくく美しきとまはましや
花よ来て浮世の人の神せり
梨のふたふと蝶よ日か移り
山吹よ浮雲を岨の崩の那
山名の尾せひ移りつり
春のせやまが中けり 水の音

野梅 抱月 雨等 去来 重政 越人 曲翠 木導

別霜 藤 春暮 行春

胡葱の結ひ露すきよ別
又六反志さるるもや
赤橘のうるはしくなりぬ
いづまも禁よあはるる

吐竜 為有 山店 荊口

夏之部

更衣 袷 綿貫 青簾 灌佛 花御堂 花摘

更衣十日を争くハ花さるる
日小や多て古袷も似合危
綿貫の目を節目よ限
その色又いつもあまし
灌佛や控子まぬを寺の児
色く乃朝の帯や花御堂
洗まのとももあて通る搔

野坡 湖水 丹芝 吟松 其角 乙由 賤水

短夜 葵祭 夏夜 子規 鳩鳩 卯花 牡丹 杜若

寐いし寝又飯多く旅そめあき
神恵葵のうあくうはうか
夏夜表紙水と秤又掛より
杜宇水戸街道も秋舟之
かんこ鳥多うひよ獨敷隣
卯の毒小芦毛の馬鹿表紙
月蝕の露よめまー白牡丹
夏のうちのやえを咲そ燕子忌

冬松 几右 冬市 山店 陽和 許六 木導 冬始

罌粟 紫陽花 葵 燕尾州 百合 茨 菱 骨蓬

罌粟 紫陽花 葵 燕尾州 百合 茨 菱 骨蓬
あちかはよ之山と母る山つき
朝露や流あきそ落る立 葵
澤深と鱧のふた 沢辺う那
うのむひく百合と酒吞城より
ひくくはへるの啼秋ハ花あはれ
船より多紙者ー短ー菱の忌
河骨の一紫下揚るふくれる系

千那 所梅 非群 嵐策 拒雪 非群 雪芝 一露

藻花

もの意や多かり控るも一はうき

文中

萍

浮葉や鬼ありは川をくも

柴栗

瞿麦

かたしし不憤鼻禪子や川あり

嵐策

夏菊

夕多や暑くのうらよ菊を切

亀洞

筳

さるる小る溢る啼ぬが

柳雨

豇豆

角豆飯妹の垣根にあまたなり

亀洞

茄子

この小智人五人は三ツをいれ茄子

雪声

覆盆子

失ひく又たなとほひちまうか

糸賢

麦

刈込し麦粒匂ひや宿乃肉

利牛

桐花

神鳴の形こそ暑し相の意

史邦

棟

棟佩る月法とめうや芝着

嵐雪

橘

立葉や籬の端ハさるりは

桃憐

青梅

青梅やおのう控る落るさる

岩水

合歡

川添や糸む乃糸糸の巻の色

魚光

箏

外子よ身を擗る猫のたをれは

許六

若竹

若竹や煙乃ゆる庫裏の窓

曲翠

夏月

亦此もこの菴よりし夏の月

莫陵

夏山

夏山也夏もさくも寺跡分

山店

夏野

啼そふ虫の飛ふ夏野分

任口

夏水立

月落る滝のむうひや夏水立

陽和

雜復

緑毛龜跡遠より来る 皋月うふ

不知

木下園

口多ふらん木跡下や此朝りけ

几右

昼寐

滝ちりて岩と方より夏の昼寐

鶯舌

松魚

並とも先まの川船也初松魚

岩水

鯨

投網りぬるい分たり砂のあや

近之

川狩

親も子も木よたまる秋川うふ

陽和

鹿子

秋ちのくちなるや鹿の子跡額つき

土芳

鹿茸

小男鹿也樂しく生る 袴巾の

雪芝

火車

草の繁や暮小獵男跡火車光

几右

螢

中も木をわくる嗅さよ水の音

正秀

夏虫

燈灯小何里あてなる夏虫

蝶伽

蝸牛

蝸牛石年 流るる音そりき

氷卷

蝙蝠

蝙蝠小日多て杉乃匂ひうき

小春

蟬

夏の蟬涼しき聲や晁き声

乙州

蚊

旅人や曉るの蚊乃川泉

沾荷

蚊火

一筋の標にまゝ小蚊をぬ

工齋

蠅

獨寐や蠅を忌む縁に控ふ

来山

紙帳

思ふ事帟帳に書と端り危

野徑

端午

虫刀乃又糸を通る端午うね

百里

菖蒲

際もあき向ひ近江のあや免うか

尚白

幟

左右を小横雲にさる幟の那

百里

粽

む津うーや粽こくも来門

言水

競馬

入るうち罪もさるぬ競るは

孤屋

入梅

梅の晴る牛控はする提うさふ

延年

五月雨

世の人をせそる五月雨傘の下

虎角

五月雨

舞坂や雲は五月雨盲むま

舌角

田植

唄ひうて田うへの中雨の聲

土芳

早乙女

老後をもあ乙女さる小津田は

景道

早苗 一ををの蛇の血ぬらふ子苗の那 弥子

秋雞 烟うるとや 鴉秋の啼声 雪芝

芦雀 引潮の表や 夜半の啼声 言水

翡翠 川せき 鴉秋の啼声 嵐竹

羽枝鳥 追よこし 枝よ志をく 羽枝鳥 立明

練雲雀 舞疲のけり 雲雀の啼声 巴三

鶉 鶉穀より 鶉の啼声 闇指

鶉 炬火もむす 鶉の啼声 越人

氷室 六月 鴉秋の啼声 氷室守 言水

土用干 ありうと 鴉秋の啼声 土用干 杉風

暑 たり 暑く 鴉秋の啼声 木節

雲峯 雲の峯より 鴉秋の啼声 半残

水音月 水音月 鴉秋の啼声 涼菟

涼 涼しきや 鴉秋の啼声 句空

清水 清水の道より 鴉秋の啼声 徐寅

風薫 風薫るとに 鴉秋の啼声 景賢

心太

李の本より藤より多しうさるらん
吾角

簞

漣や近江表を多うむし強
全

扇

簪待や糸地扇乃 風あさり
良昌

團

かひく日を襟よりあくる巻
鬼演

蓮

蓮の急生心と水の底清し
苔蘇

荷葉

蓮籠のせき紀中ふもうさ塔
朋水

旋花

塔の縁の名と昼顔の葉下り
道下

壺盧

ゆふ顔とあるし結雨飛そあつき
我峯

帷子

かさ動の目結露ふ記戸はう
万牛

夏衣

縮う何ふ袖らん夏あろも
含棘

汗拭

南乙ふ志とて丁ぬ行 拭
山店

祇園會

杉の葉も青水無月結沙流
其角

祭

尻衣よりかゝるも替り糸
時吟

瓜

瓜守や桂結禦きと
吾角

御杖

鮫も繩もこれつ流せと
全

秋之部

立秋 秋の初也 魯語 樹毛のさし 浪化

初秋 初秋也 惟子おし 小かく 冢雨 毛鈍

七夕 七夕也 梵傳 吹笙を 笛を吹 其角

銀河 天界の裾を 杼えぬ 銀河 木因

鵲 かさねたり 物とニツ 星 貞程

燈籠 美女羨男 梵の籠 小てし 送ひ 去角

高燈籠 揚燈籠 松より 上りへの おかし 遊竹

施餓鬼 唐音乃 其の 餓鬼の 際夕の 家 百里

墓参 暮糸 ちるハ 柳の 墓 あり 立縁

鬼祭 鬼まつり 宿や 眺る 境 あり 調柳

蓮飯 蓮の名を 清く すす 蓮の飯 支考

麻箸 かさねし 麻木の 箸も 長男並 惟然

生身鬼 生身玉 玉を 結ぶ 示 杖 けり 龜洞

盆月 踊る 妻交 縁の 盆を 盆結 月 李由

送火 おくり びと 送る ぬ身ハ 念佛 龜翁

花火 踊 相撲 秋風 初嵐 暴 露 霧

盲子能 船鼓く 美やう 那
一老くると 待人 遅さ 踊り 那
裸身よ 麻 結 白ひや 相撲とり
秋風や うらうら 暮れの子 めもめく
日をおむ 髪り ぬるひや 初嵐
小原女や 舞ふよ むくかへ 帯
朱鷺鳴 鳴て 舞ふ小 露わの 山 露
帆柱の あゝ ぬや 旁の むらひ 山

春富 尚白 許六 末山 嵐雲 園女 举白 北枝

稲妻 虫 蜻蛉 結翼 竈馬 蛸 蟪蛄 松虫

いな津ま 虫 蛸 取法く 篠葉ふ
虫にも 結衣と ぬる 衣中ふ
富士や 笠まきと 蜻蛉の 渡るま
まの虫ハ 子種 の 暮れ 案山子ふ
竈るや 顔よ 飛つて 柿 棚
あゝ 暮の 蛸や あり 柿の 虫
かまきりや 裾拂ふ 手に まるつて
さくらりと 松虫 渡る む 海芽う 糸

路健 句空 横几 鋤之 北枝 立祖 十丈 舌角

鈴虫

鈴虫や炬火先へ荷ふせせ

全

秋蠅

秋の蠅も温抱ハあつた

千那

秋蟬

秋風や梢を那まぬ蟬が壳

百里

蝻

いほち固く赤くまうたるいあこ

風子

蟋蟀

灰汁桶の草履をりきるしく

凡兆

柳散

ちりり散るふ河乃柳は

望一

桐葉

風待しきふと桐の一片は

望一

木槿

輪乃圃の中ふ草咲くもけ

鮑石

雞頭

枯のりる草もそのじや鶏頭花

万牛

女郎花

杞ふかす檜は深少そ折ま

松吾

薺

あさ顔や名のひらきる塚乃際

平交

萩

那雨や小萩はもき麻の角

去来

野菊

山菊の葉種きくとも又遠ひり

越人

芙蓉

百合はる芙蓉と信る命う

風麦

蓮実飛

蓮のこち沈みさう川何あ

素堂

蓼花

木履ぬく傍に生る葉たての

水節

葛	もやくしとて志のまゝ也葛の花	山店
芦穂	芦の穂や振く衣より散る衣	路通
蘭	外をのさるる糸の借ふらふの糸	如行
芒	芒落戸よりさるる糸	牧童
尾花	仰乃弱乃尾花吹とる尾花小	其角
番椒	鶏卵よ梅のをせりて所かし	央邦
名野	花舟の牛より人そ憎まると	志友
草芥	草芥と砂の子やまゝ一鄙の市	調之

芭蕉	芭蕉系やうちかへし月の新	乙州
蔦	蔦の紫や貝壳拾ふ岩の間	卧高
蕎麦花	狐火結とるあつとる花	荒雀
西瓜	宵月よあつとるあつとる	一江
三日月	三日月や必ちらき星の如し	素堂
月	月の次隣の榎木とるより	胡及
待宵	旅人をゆく待宵のやうな	羅人
名月	名月や見ゆめとも居ぬ秋とる	湖春

既望 既望の空多秋まもほし 秋の空の花 猿轡

右月 秋の空に本立も空し 右の月 左角

駒迎 駒迎ひ遠坂よりハ初冬那り 正秀

放生會 糸よ来るをくを見あはし放生會 松花堂

初潮 初潮や鳴戸の波に飛脚舟 九兆

稲 稲むしより近江の國に廣の船 浪化

早稲 世のうきやを七積 船のあは 呂風

晚稲 晚稲田の繩をる方や本通す 遠水

落穂 稗のの敷珠持をる落不ふ 水導

紫宇 山綫の紫山子他を笑ひり 重五

鳴子 此村の亜房際をき 鳴子の船 古梵

引板 曉乃引板をよかふる妻もうら 秋色

落水 高よひく入日さるる 水 古梵

秋作物 秋の田やをのりて 稗二依 尚白

新酒 子稻酒や初よか多し 竹の筒 虚谷

鴉 百舌多啼や入日さるる 小雲原 九兆

鷓鴣

鷓鴣突能る飛るるは多形田

肅山

鶉

授綱と袖ぬきそきく鶉う形

正秀

木啄

木啄の扱とはくく住居の那

曲翠

鵲

せせせや破去る縁のうへ

磨盤

鹿

鹿の音よ人の顔見る夕うき

一髪

菌

きけ物や黄茸も兎ハ嬉しく

利合

松茸

松茸やまの山見はあし一室は星

素堂

初茸

初茸のうちとる腐日新の那

治蓬

柿

清澄や淡柿きくは素うき

其角

栗

日蝕結目よ喰入るや栗の虫

季由

團栗

えんぐり結落る飛り石佛

為有

椎

ひろく形好き風も椎の売

と

重九

吳菊も色よ峰出は九日うき

桃隣

九日

人数よ白いと分るるふのきく

浪化

菊

飛るる力やたうき菊

軒柳

構衣

小袖乃脇伴うけの暮の宿

横几

露時雨

霧の川静の寺のあり

遠水

秋雨

秋よ狩らひささか秋をたたくる

挙白

紅葉

秋夜のみ葉をて居る被るあり

八木

秋夜

初秋と後秋争ふ秋とぬより

来山

長夜

一志さるひきましく形ぬ秋はきき

所水

夜寒

もすれの船は絲つう勢秋空りか

丈中

馬

うきまうといふも何はては秋乃夕

鬼貫

秋暮

立歩くうき歩も秋乃夕

嵐雪

行秋

ゆく秋を胡弓弦糸のうきま

乙州

秋雲

山くや一巻はくわ秋の雲

涼菟

築

らる築あり増ふも表なり

心水

冬之部

初時雨

此頃の垣乃弦目や神あり

湖春

時雨

海山の志あり遊る居のう

丈中

爐閑

炬のきたる心ある附雨の系

山店

炉 火桶 火鉢 巨燵 炭 炭竈 埋火 楯

深し居やい後平は是の具も居以
さぬくはふ志持くく相火桶
立居る中より煮湯の火を鉢に
宥らしてまこと去嗅き火燵りか
かこ炭も其木の葉より起りたり
すこくまことあして経よりむ法沙り
うつら火に去驚ふせく句ひり邪
楯乃火より瓢の以後のかをとりり

山峯 園女 芦本 我峯 其角 不炊 神寂 探志

十月 神嘗 神送 神皇 小春 達磨忌 十夜 御影講

涉まーやまこ十月は曆うり
神嘗月灯燵祿宜の衣を
神あかり荒らるる神去大根
神壇のめをまのりや源太史
時多気のあくそ一日小春の系
寺る油忌や時多るる膏は油楊
禅門の草足御おろは十夜は
上人の教より皆おけし新講

来山 言水 洒堂 凉菟 路通 李由 許六 史邦

御取越

御取越ー肉菰枯菰ー一坐蒲

嵐竹

蛭子講

酒桶の夢の雪也堀子澤

李由

神迎

神むくぬりも馬乃口

珍碩

吹草祭

湯火燃やたぬく飛治枯良法

李濃

冬至

書居枯一寸伸ー冬玉の那

仙雀

風

風震菽子さ手ふ小菰このか

残香

冬木立

心ーる僧とかく母冬木立

卜千

冬日

武藏野と心ひと冬枯日さ

洗悪

冬月

豆もともあそもそー冬の月

我眉

冬簞

冬簞淡菜枯売のたまるぬ

所水

冬構

葉藉さる厚さ庭や冬うま

程巴

寒椿

火燃ーくそ炭日よなるぬ冬つとき

木因

枯菊

菊売や冬たかく薪の星ささる

杉風

寒菊

寒菊や蔬さへもそ男新乞喰

許六

枯芒

乱を流けてるる程多ー枯蔭

杉風

水仙

水仙や一萩と安房枯船たより

専吟

茶花

茶乃花よ岩ぞく旅せんよあは

色風

帰花

何の木と仰ふもあしりえりる

来山

茶炭花

山菜花也のきあきき 弥帽子

柳土

枇杷

岳木よき木練つらりり 枇杷の花

及松

冬牡丹

うきあつるち花あきよ冬牡丹

杜旭

木葉

岩くわいよいや かくる木花あき

其角

落葉

ちの舞あきあきあきあきあきあき

巴風

麦蔞

のこきよあきあきあきあきあき

一井

干菜

の干菜戦く萩の寐えの秋恋

夜村

葱

時雨り風やいつこの根原汁

全

蕪

山里尔もの思ふ 夢に花

松芳

霜

ものなきき身よ恥くや庭の表

全峰

霜夜

山犬とる花 嗅出は 表夜うか

香角

霜柱

谷底よ鶏の啼るるおれをくら

凍鬼

千鳥

荒破やきと別くる友ちとり

去来

水鳥

水鳥あきあきあきあきあきあき

湖風

野鴨 鴛鴦 磯鷓 鷓鴣 鷹 暖鳥 木兔 若臍魚

野鴨の聲ゆめりちる月多し
鴛鴦のきり人よ見せを池の鴛
磯波江や升瓊と飛くあつあり
鷓鴣の啼きと見せりりそそはあ
鷹啼や志のひまののちの呀
放ちる鷓鴣めくれぬめくめる
木兔の尻巾やいと啼おは
若臍魚の沓あんかうもせありる

嵐雪 所水 次村 許六 遅雲 藤白 策中 山夕

空鮭 蛎 夜興 河豚 鯉 生海胤 鯨 細代

空鮭や空の魚は魚乃店
うすしひも蛎のうすし
三日月とおもひはるむ秋興哉
あくはるや河をゆくもそ流り
鯉舟や比良より北る音氣色
むくはるまき生海胤や初る朝法
鯨突く男と波の音ちのり
あつらむ音や秋事如細代也

除風 荻子 挙白 八橋 李白 露沾 万年 林長

霖

霖やうまの泡ハ多衣泡

杜旭

寒

宵月のあうくと出る寒さ

卧高

寒声

寒き声や西条あるとは早月夜

乙孝

寒垢離

かんたつやおとく追う物ありし

取具

薬喰

傍や世を悟りうへの茶喰

芦本

納豆

納豆まるとこれや峯は雪あはし

丈中

紙衣

室より多羽立紙衣と踏む

舟行

頭巾

頭巾まき帛沙巾をたよ捌き

其幄

衾

あつ衾甚か酒もどろろひり

千那

足袋

足のいそぎちうとき足袋にむき

月下

初雪

初雪は麻の角もあまれのう

紅雪

雪

門中雪白と盥みすあうり

嵐雪

霰

をそれ降きや胡飯の出しおま

画好

雪吹

嵐賣の横丁はのけ雪吹くれ

湖春

霰

武士の陣あくはまん霰の如

好春

標

秋とあえて雪車小葉とる標

長虹

樵	かんたききや出羽と越後ハ玉境	紅紫
氷柱	帆柱の氷柱見すうに朝日くら	其角
凍	うえ死ぬ身の暁や指もく死	今
神樂	御神樂やうや焚くは土鼓あは	去来
寒念佛	あはれあはれの撞木神也かん念佛	支考
鉢扣	まゆき瓢箪見せよ	素
臘ハ	臘ハを切とたぐそ鉢扣	木導
御佛名	佛名の礼と獨とくふ整う家	淨水

煤拂	家くやかこち穢くさ煤拂	祐圃
節季候	節季ゆやまへ鷄と追あう	惟然
師走	うらあふり小豆も市結沙気	正秀
餅搗	餅津さの籠さうゆりそゆり	佳峯
年忘	年つまねれ貫垣落くそゆり免	竹亭
曆賣	曆くや暦いそくくき曆うり	嵐雪
豆糺	ひくくか今をかそ祿年の豆	智月
年暮	年の暮破き袴のひく下	杉風

衣配 待春 行歳 大年

衣配等々ぬ顔の廿日あはれ
待春や水より流る塵何く
ゆくまや木の實実りしの碎花
雀あしぬ日丁そまきくに大晦日

望翠 智月 沙明 其角

